

No.1928

8月24日例会	プログラム	「森下ガバナー公式訪問」	RI第2690地区ガバナー	森下 和郎様
8月31日例会	プログラム	「ROUMAZ NIKKI」	ISHIKAWA TAKUBOKU	小野田 元男君
8月24日のメニュー	・ 鮭盛合せ・冷やしぶっかけうどん・茶碗蒸し・鯛かま潮仕立て・フルーツ・コーヒー			

前回(8月17日)例会記録

出席報告	会員総数	36名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	26名	欠席者数	8名	出席率	76.47%	前回補正率	76.47%
	前回補正者	宮本君 大久保君 白石君								
	欠席者	藤田君 藤原君 花岡君 井上君 仲田君 中山君 大久保君 山田(次)君								

会長挨拶

お暑い中、ご出席ご苦労様です。最近の暑さは特に厳しく、昨日16日には、岐阜県多治見市と埼玉県熊谷市で40.9を記録、昭和8年7月の山形市の40.8を越えて日本新記録となりました。この酷暑で、熱中症で倒れた人も記録的で、死者も出ております。皆様も、熱中症に充分注意して下さい。

さて、毎年8月に入ると、広島、長崎の特集番組が増えてきます。昭和20年(1945年)8月6日、広島に世界初の原子爆弾が投下され、3日後の8月9日、世界で2番目の原子爆弾が長崎に投下されました。そして、8月15日終戦記念日でございます。

広島は原爆は、ウラン型で、TNT火薬15キロトンに相当、長崎は原爆は、プルトニウム型で、TNT火薬22キロトンに相当します。ちなみに、その前の3月10日の東京大空襲では、B29爆撃機344機で、TNT火薬2キロトンを落としております。広島で約7~8倍、長崎で11倍に相当します。2つの都市で一瞬にして何十万人もの人が亡くなりました。そして、今でも放射線の影響で苦しんでいる人があります。核兵器の無くなる日が、争いの無い日が一日も早く来る様、希望してやみません。

会長報告

- ・ 来週は、ガバナー公式訪問例会です。会場はマリンホテルになります。お間違えのないように宜しくお願い致します。
- ・ 米山記念奨学会委員長 渡邊君と私が米山功労者への申し込みをさせて頂きました。

幹事報告

- ・ 10/27・28に行われます地区大会へのご参加をあらためてお願い致します。
- ・ 来週の例会は森下ガバナーをお迎えしての公式訪問例会です。
会場はダイヤモンド瀬戸内マリンホテルですのでお間違いないようお願い致します。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧させて頂きます。

委員会報告

- ・ 出席委員会(三宅照正委員長):クラブ活動報告書の中で、8月度の100%出席者の方が25名いらっしゃいました。出席適用免除者の方を除きましても、あと3名の方にご出席をお願い致しまして、80%台を達成したいと思っておりますので、宜しくお願い致します。
- ・ 親睦・家族委員会(三宅孝治委員長):先週は納涼例会にご出席ありがとうございました。9月28日(金)19:00~瀬戸大橋C.Cレストランにおいて、観月例会を執り行いたいと思います。ご案内を回させて頂きます。アトラクションは、親睦・家族委員会の方で、現在考えております。ご期待下さい。

スマイル・ボックス

- ・ 松尾会長 - 納涼例会でご苦労様でした。
- ・ 林君 - 8月3日ガバナー補佐クラブアッセンブリー、立石様にお世話になりました。本日卓話です。欠席2回。
- ・ 島田君 - 藤田さん大変お世話になりました。納涼例会、皆様にはご苦労様でした。
- ・ 三宅孝治君 - 納涼例会参加ありがとうございました。くじ引きでは、大変お騒がせしました。
- ・ 岸本君 - 家族例会では、孫達がお世話になりありがとうございました。

・石川君 - 家族例会ありがとうございました。

プログラム 「岡山県の成り立ち」 林 実君

私の趣味の内に、旅行をしたら博物館とか資料館を巡るのがあります。その中で、一つだけどうしても避けて通るものに、古文書の類があります。しかし、2年程前からどうしてもやりたいと思い、国立病院跡に記録資料館が出来たので、月1回通っております。まだ、読めるところまでいきませんが、今日資料で出させて頂いた物が最初の教科書です。とりえず読ませて頂きます。(配布資料参照)

ここで気になったのが、定の最後の深津県です。岡山、広島、兵庫県なら理解できますが、深津県がどこにあったのかを調べてまいりました。今の福山市・深津町に深津県というのがありました。

ここから岡山県の成り立ちの本題に入りますが、中央集権国家を目指した明治政府にとって、江戸時代から続く藩体制の解体は、大きな課題でありました。この課題を解決すべく断行されたのが、版籍奉還と廃藩置県です。藩とは、1万石以上の所領を持つ大名の土地、大名とは、1万石以上の領地を持つ武家がそう呼ばれておりました。江戸期を通じて約270余藩がありました。その中で、親藩、譜代、外様があったわけですが、親藩は尾張、紀伊、水戸の御三家、御家門。譜代大名は、関が原の合戦以前から徳川家の家臣だった大名。外様大名は豊臣家の大名だったものが、徳川幕府で外様となりました。その中でも国持ち大名、城持ち大名、陣屋(無城)の別がありました。岡山県には4つの城持ち大名がおりました。(配布資料参照)美作には、2つの城持ち大名がおりましたが、勝山藩においては、幕府の要職を務めておりました。江戸中期に幕府命により岡山に来たと思います。この勝山藩を治めていたのが三浦家ですが、ここの家老が現在の政治家・鳩山一族です。

版籍奉還ですが、明治2年(1869)1月薩摩、長州、土佐、肥前の四藩は、版籍奉還を申し出ました。版籍奉還は、藩が支配する土地(版)・人民(籍)を朝廷に返上することです。新政府のもっとも有力な四藩が版籍奉還を申し出たため、このうち他の藩も相次いで版籍奉還を願いました。かれらは、版籍をいったん返上しても、改めて新政府から再交付があるものと理解していたのでありますが、版籍奉還の申出を許可した新政府は、旧藩主を藩知事に任命しました。明治3年8月までに計274人が藩知事に任命され、この版籍奉還により、表面的には藩主から藩知事に名称が変わっただけのように見えますが、藩知事は、新政府が任命する地方の行政官に過ぎなくなりました。その地位も非世襲となり、家老、年寄などの世襲の職も廃止されました。また、旧来の領地も天皇の土地を管理する管轄地とみなされ、藩主の領有権も制度的に否定されることになりました。明治4年(1871)7月、新政府は廃藩置県を断行し、260余の藩はいっせいに廃止され、もと藩主であった藩知事は罷免されました。備前・備中・美作地方には、旧藩が領有していた県とする形で14県が設置され、9県の他県飛び地も散在することになりました。

配布資料の「岡山県への合併過程」の資料の中で、倉敷県とありますが、ここは幕府の直轄であった為、藩ではありませんでした。明治元年、日本でも一番早く、県として設置された1つであります。現在の倉敷市、広島県の府中市を含んだのが倉敷県と言われております。この倉敷県は3年後の明治4年に深津県に合併されております。また、明治4年11月、改置府県により、日本全国は3府(東京・京都・大阪)72県に整理されております。山陰・山陽は8県に統合され、現在の岡山県には、岡山県、深津県(現福山市)、北条県(津山県、鶴田県、真島県)の3県が設置されることになりました。深津県の最初の県庁は福山市に置かれましたが、西に在り過ぎて便利が悪いという事から、現在の笠岡に移されております。そこで、深津県は明治5年(1872)に小田県と改称し、さらに明治9年の府県区画改定、合併の布告により、4月北条県は岡山県と合併し岡山県に属していた備後六郡が広島県に移管されました。ここに旧備前国、備中、美作一円が岡山県となりました。さらに、その後明治29年(1896)吉野郡石井村、および讃甘(さのも)村、中山(吉野郡 佐用町)、昭和38年(1963)日生町福浦(赤穂市)の1部がそれぞれ兵庫県に編入され、これによって現在の岡山県となりました。

又、明治6年まで各地にお城がりましたが、その年の1月、廃城令により、備前、備中、美作では、岡山城のみが、存城として残されることになりました。全国で125の城郭が大蔵省管轄のもと廃城となり処分されることになりました。そして、江戸時代、支配の象徴として全国各地にあった城郭の多くは、姿を消すことになったのです。

ここから、最初にありました切支丹宗門之儀(配布資料)に入りますが、切支丹という字は、切るという字を使っておりますが、普通、吉利支丹と書いておりました。ご禁制の後、この字を使うようになりました。この禁制令は慶長18年(1613~1873)から260年間続きました。その次に邪宗門とありますが(配布資料参照)邪宗門とは日蓮宗・不受布施派です。殆ど全ての仏教各宗派が江戸時代においては、権力者に慄き、服従して、保護を受ける為に、御用宗教としての役割を演じていたのですが、その中にどうしても言う事を聞かなかったのが、キリシタンと日蓮宗・不受布施派であったわけです。特に岡山県の弾圧はひどく、廃寺は563寺といわれており、玉野市では、お寺は2つしか残りませんでした。還俗(僧侶をやめること)・追放の僧侶は847人にも上りました。では何故、不受布施派が弾圧されたかということ、事の起こりは豊臣秀吉の時代にさかのぼります。文禄4年(1595)秀吉は亡父母の霊を弔うため、京都東山大仏殿において天台真言、律、禅宗五山、日蓮、浄土、一向、遊行の八宗から各100人ずつの僧を招き、法会をいとむ事を計画しました。これについて日蓮宗の中で紛争が起きました。一つ目の理由は、「秀吉は日蓮宗ではない」。2つ目は、宗祖日蓮が「念仏無間、禅天魔、真言亡国、律国賊」と他宗の信仰は罪悪を深めると攻撃して以来、日蓮宗は他宗派の者を仏法をそしる者とみなす。でした。そこで、日奥は、「日蓮の教えを破ることは出来ない、どんな大事に及ぶとも法は重く、命は軽い、宗義を堅く守るべきである」と秀吉の命をあくまでも断りました。秀吉はこれを耳にして、たとい日蓮の教えといえども、公儀の命令は格別であるから出仕せよと命じました。そこで日蓮宗の一同出仕することになりましたが、日奥はあくまでも拒否し、寺を飛び出し大仏出仕の連中を攻撃し続けました。ここに不受布施派が誕生しました。

徳川家康も秀吉と同様、不受布施派を許すものではありませんでした。家康もさとし、なだめすかして命に従わせようとしたが日奥は承知しませんでした。そこで、慶長5年(1600)日奥を対馬に流し、13年後赦免され京都妙覚寺に帰ります。しかし、その後身延山とトラブルを起し、1631年(寛永8)不受布施派を邪教と断定し、日奥は再び対馬へ、弟子の多くも各地に追放の刑に処せられました。以来、不受布施派は厳しく禁じられましたが、なおその宗義は深く残りました。幕府は諸大名に対して、今後支配下のものに不受布施派がいたら、受布施派が他宗へ転宗させよと命じました。しかし幾度か弾圧を受けながら、明治まで隠れキリシタンのように、絶えずに続いておりました。別に権力に反抗する社会的な基盤というものを持ってはいなかったのですが、近世仏教界においては甚だ特異な一派でありました。明治6年に禁教令が解け、明治9年公許・岡山妙覚寺が再建・江戸初期以来の悲願の成就となりました。岡山県に本山がございます。

そこで、何故このような宗教弾圧があったかという点、信長によってまず一向宗が、江戸幕府によってキリシタンが、最後に日蓮宗不受布施派が弾圧されました。理由としては、一つ目は、弥陀、釈迦、ゼウスという一人の仏や神に対して信仰をささげるという「信心」。二つ目は、他の宗派に見られない強固な団結心があった。三つ目は、信者が建立し、信者の浄財で維持された。四つ目は、君主への忠節よりも、宗祖の親鸞、日蓮、ゼウスへの忠節を選び、弾圧がはじまると、果敢に戦い、法難や殉教を甘んじて受けるという、共通の歴史を持っていたからだと思います。県下の不受布施派弾圧と信者の抵抗の歴史はすさまじく、宗教史のうえで、特筆すべき出来事であると思います。